

日本の未来を長く変える税金

静岡大学教育学部附属島田中学校 2年 田中 奏遥

身近な「税」とはなんだろうか。そう考えた時、ごみのことがふわっと頭に浮かんだ。

私が、数年前インドネシアに家族旅行に行った時の街の風景だ。その時私は、ごみであふれかえっている街を生まれて初めて見た。特に、溝には生ごみなどが多くたまっていて水も汚れ、臭く、あまり良い印象を受けなかったことを今でも覚えている。この街を見て、日本の街がきれいだと海外から言われていることを実感した。いつも見ている風景が、世界で見ると当たり前ではないということを知り、とても驚いた。

そこで、なぜ日本ではインドネシアのような風景をみることが少ないのか、気になったので調べてみることにした。すると、インドネシアには、日本では当たり前誰かが利用できる、自治体のごみ収集サービスが行き届いていないことを知った。しかし、日本では、決まった回収日に決まった場所にごみを出せば回収され、適切に処理してもらえる。日本はどうやって、今のようなごみ処理が定着したのだろうか。

昔の日本は、川や家の前にごみを捨てていたということを祖父から聞いたことがある。当時の写真を見ると、今では考えられないような汚い景色が広がっていてとても驚いた。しかし、調べてみると、それは前回の東京オリンピック大会の開催が決まった時から変わっていったという。オリンピック開催をきっかけに、国民に海外の人たちに今までは違うきれいな日本を見せたいという一つの目標ができた。そして、行政がごみを出す日時を決め、ごみ収集車に直接ごみを出すという誰もが、簡単に守ることができるルールを作り、周知し、国民と一緒に、今までの日本とは違うきれいな日本を作り上げた。

国民の望みの為にルールを作り、周知し、実現し、そして新たな社会システムを創り上げる。こんなところにも税金が使われているのだと知り驚いた。

この社会システムがあるおかげで今の日本があり、私たちが気持ちよく暮らすことができている。これらの社会システムを創るために使われた税金は、どれほど大切なものだろうか。

私は、今まで税金について深く考えることもなく、買い物をするとき消費税を払うことに嫌悪感を抱くこともあった。しかし、税金は、社会システムを動かすだけでなく、長く日本の未来を変える社会システムを創るという事にも使われていることを知り、社会が成り立つためには税金が不可欠で、納税はとても大切なことだと感じる事ができた。

将来、私も様々な納税の機会があると思う。そして、その税金が社会システムの創造や、社会の価値観を変えるために今後も使われてほしいと思う。